

【分科会の成果と課題】

[成果]

様式 2

- ◇ 中学校区、地域、校長、職員の4つの視点から、教頭は何をするのか教頭会で検討する。地域と連携した教育課程を編制していくには、子どもにどんな力を付けさせたいのかについて、学校と地域が共通理解することが大前提となる。その上で、中学校区における人材リストを作成し、活動の発展性を検討する意義を確認できた。
- ◇ 教頭は、県の動向や要請の方向を注視し、自校の現状を踏まえた上で、キャリア教育主任と取組を推進するとともに、学校と関係機関・地域事業所等をつなぎ、関係強化を図る立場であることを再確認できた。
- ◇ 教頭会として共通認識をもち、地域や保護者の願いを幅広く受信していくことが大切であり、受信した声を生かして活動の質を向上させる良い機会となった。
- ◇ 行政と連携し、地域教育に関する組織が機能していくようにしたり、コーディネーターを動かしたりしていくことも、教頭会の役割であることを再確認できた。

[課題]

- ◆ 地域の人的、物的資源がすべて教育課程に位置づけられるわけではない。各校の教育課程に「地域連携」の視点を入れ、教育課題や実情を考慮し、精査していく。各校での成果や課題を教頭会にフィードバックさせる。
- ◆ 教頭は、キャリア教育に対する職員の意識を高める必要がある。特に小学校は意識が低い傾向にあり、職員研修を設定してきちんと理解させることが大切である。
- ◆ 行政と連携し、地域教育に関する支援組織を運営している地区がある。教頭会はこのような組織が有効に機能するように働きかける。
- ◆ 中学校区で地域に貢献する活動を実施するなどの関係づくり、継続性、協働性、関与性に焦点を当てた研究を進めていくことが必要である。

【下越 B ブロック大会の成果と課題】

[成果]

- ◇ 3つの分科会ともに、提案地区教頭会の取組が明確に示された発表がなされた。指導主事先生のご指導のおかげで、班別の話し合いも充実し、実り多い研修会となった。
- ◇ アンケートでは、「大会日程」の肯定的評価が96%、「開会式」「分科会運営」「閉会式」「要項関係」の肯定的評価が100%であった。全会員にとって有意義な大会となった。
- ◇ 村上市岩船郡小中学校教頭会が単独で運営を担当した。前年度から実行委員会と事務局中心に方針を立て、事務部・研修部・庶務庶務部の3部会で役割を分担した。毎月の教頭会に合わせて、綿密な打ち合わせと連絡調整により、準備は順調に進んだ。
- ◇ 会場は村上市民ふれあいセンターとした。駐車場が広く、また高速道路のインターから場所が近くて道路も分かりやすく、分科会会場も広く、施設的に申し分なかった。
- ◇ 当日の午前中に運営の最終リハーサルを行った。設営庶務部は事前に会場の下見をして、業務内容を確認した。
- ◇ 3年前と同じ会場であったことや、前回の反省事項が確実に引き継がれたことで、来賓の方や多くの参加者から、大変丁寧な運営であったという評価を得た。
- ◇ 当日の要項にかかる経費を極力削減して、簡素な運営（封筒は作らない、カラー印刷は控えめにする、観光パンフレットは入れない等）に努めたことで担当地区の多忙化解消につながり、会員から集めた参加経費も500円に抑えることができた。

[課題]

- ◆ 直前の欠席が複数あった。開催日が文化祭や授業参観等の前日準備と重なったことや、校長会全国大会への校長出張と重なったこと等が主な理由であった。年度当初から日程は示してあるが、校長会への働きかけを含めて全員参加を目指した運営に努めたい。